

サンデーレース仕様シルビアQ'Sの場合

by TRIAL

トリアル 大阪府堺市八丁町4-102-9 ☎0722-54-7039

## PS13改

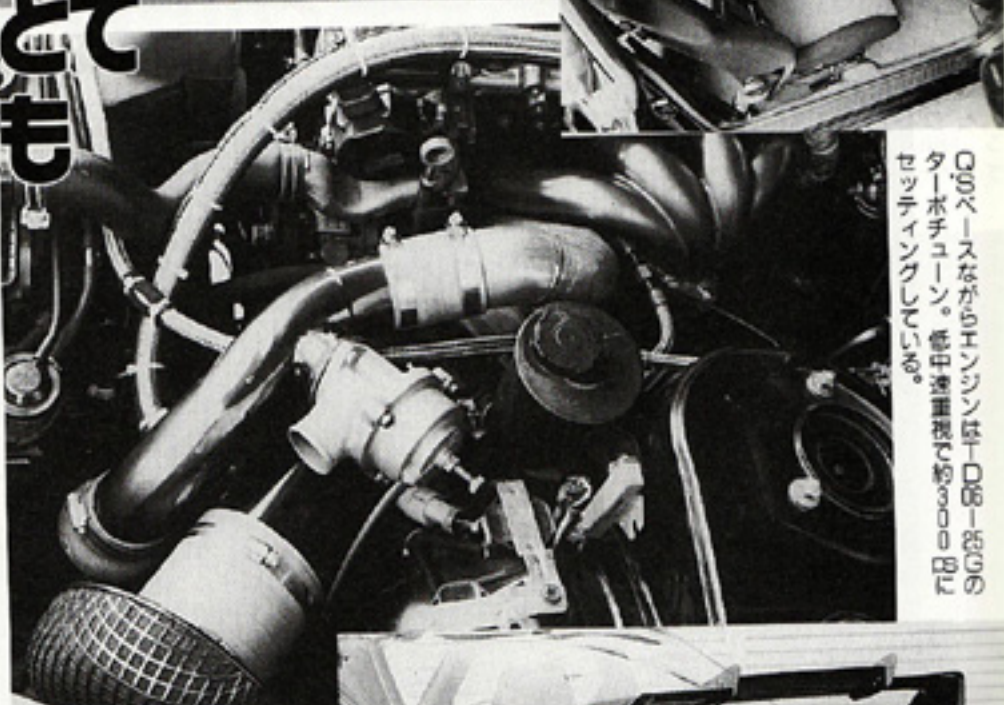
### ◆公認申請箇所◆

ボルトオンターボ  
 インタークーラー  
 ツインプレート  
 車高調整サスペンション  
 レカロシート  
 その他フル公認

気分シートを取り替えるというオーナーは、ストリートではリクライニングするアクロスを、サーキットではカーボンのSP-Aを使っているそうだ。



Q'SベースながらエンジンはD06-25CCのターボチューン。低中速重視で約3000rpmにセッティングしている。



アクロスのリヤウイングはウイング部分の角度調節で、ダウンフォースが変えられる。サンデーレーサーには嬉しいシステムだ。

## 公認が広まっていくことで チューニングの自由度も 広がっていく!

### 今は過渡期だから ある程度の混乱は 仕方ないのかな?

トリアルの牧原さんが公認について真剣に考えるようになったのはサンデーレースが盛んに行われるようになったここ数年のこと。もちろん、それ以前に公認を取得したクルマも少なくはないのだけれど、ストリートで走っているクルマに関して「いくらクルマを合法化したところで使い方が違法なんだから…」と積極的に公認を進めてもそれほど意味がないと思っ

いたらしい。

コソコソ楽しんでるうちはなにこともなかったステージも、クルマが合法仕様だからといって我がもの顔で走られることになると、また走る場所を失うことになりかねないと、むしろこちらのほうを心配していた。

それに、本気で走るのはほとんど夜だけだから、整備不良で捕まることなんてないとも思っていた。

ところがサンデーレース仕様のクルマの場合、使用目的がサーキットで、だれにも迷惑をかけることなく合法的に走れるというのに、サーキットにたどり着くまでに整備不良で捕まってしまうことがある。そのへんに歯がゆさを感じはじめたわけ。

それに、最近では状況が変わってきてお客さんはどんなステージでも通用するオールマイティなクルマを求めているし、実際技術が進んでシートからサーキットまで使えるクルマが作れる

ようになった。ここで紹介するシルビアもそんな一台だ。

で、牧原さんが出した結論は「いつでもどこでも、シートからゼロヨン、最高速、サーキットまでなんでもフォローするには公認取得は欠かせない要素」ということなのだ。

しかし、気になっていることもあると言う。どうも不透明な部分が多く、お客さんが不信感を持っている場合が多いというのだ。これは公認があまりにも急激に広まりすぎたから業者も役所も警察もショップも、そしてお客さんまでもみんなが混乱してしまったため。

たしかに悪徳業者もいるかも知れないし、何も知らないのにキップを切ろうというオマワリさんもいるみたい。

牧原さん自身、一所懸命解決の糸口を探っている最中だ。こんな状態が長く続かないよう、チューニングショップもオーナーも、もつともつと意識を高めていかなくちやいけないうね。



「GT-Rをワゴンに改造して公認とって、無敵のストリートマシンに仕上げた」と、ここ数年のマッキー牧原は公認にも積極的なのだ。

公認取得費用  
約50万円  
SUPER LEGAL-TUNE  
(総販売店・コンプレックス・東京)